

11月の20～22日の2泊3日、神戸ポートアイランドで全国商工会議所観光大会が開かれ、「安藤忠雄氏」が基調講演と聞いて参加したが、中止となったのでかねがね日本の新しい発祥は大阪と言われてきたが、その大阪を見る機会が今までなかったので、夜の神戸三宮と昼と夜の大阪を極めて短い時間でしたが、韋駄天のように駆け巡って参りました。締切に追われ、資料を参照する時間がなかったので、誤りがあたらご指摘ください。

神戸大会のテーマは「これからの観光は新旧の建物、食材等をいかにデザインしてお客様に喜んで来てもらえるか？」でありました。この大会できり輝く大賞（略）は皆疲弊廃墟寸前から市民達が再建に力を合わせて頑張った田舎町でした。古い田舎の小さな町でも、希望と勇気を捨てなければ出来る成功例でありました。「昭和のまちづくりに成功した豊後高田、冬の韓国からゴルフツアーで活性化した佐賀の武雄、ゲゲゲの鬼太郎、オバケ大会の境港」と共に1万人から3万人の小さな市でありました。規模形態から言えばちょうど久留里ぐらいの街でありました。神戸は人口160万人、三宮を中心とした旧市街地(商業地区)と大阪湾に浮かぶポートアイランド、4つの大学、オフィス、文化施設が多く、神戸空港へ連絡道も兼ねているので、日中は4～5万人働いているが、夜は全く人の気配が無くなるコンクリートの街でした。

夜の三宮街も、私が期待した賑やかさはありませんでした。すばらしかったのは、北野ホテル山口浩料理長が発表されたこれからの和洋食の盛り付けのデザインでありました。素材と器を生かした見事さに、こんな技もあるのかと感銘させられました。

三宮から帰る夜の神戸港は、今や1千万ドルの夜景と言われる景観でありました。翌日昼過ぎに大阪入りした私達は、かすうどんで昼食を過ごし、時間が無いのでタクシーで一回りする事に決め、最初は市橋容疑者が一時隠れていたとする釜ヶ崎(西成区)へ行くことに…タクシーの運転手に話すと、「普通のタクシーは嫌がります。私はよく分かっていますから、安全なエリアを案内します」と引き受けてくれました。

釜ヶ崎は所謂安い宿街、1泊1,300円木札が下がっていました。トヤ街の中心にある小さな公園に露店は衣料品がいくつかあって、ジャンパー、ズボン、シャツいずれも300円と大きな値札がついていました。食堂にはコロッケ40円、キャベツ焼き120円とありました。

今は高齢者がほとんど使ってもらえないと日向ぼっこする人が多く見られました。通天閣の下には「串カツのだるま」への行列が50人位並んでおりました。

私達も、夜は心齋橋のだるまへ行くと、小さな串カツで一本200円。これでは原価10円じゃないの！と二人でボヤク。客を多く入れたいのが、椅子が小さくて座りづらいので道頓堀の吉鳥へ移ると、中年のおかみさんが愛嬌をふりまいてくれました。大阪は南北へ走る大通りを「筋」と呼び、東西へ走る大通りを「通り」と呼び、全車線(4～5車線)一方通行帯として、上手に機能して、納得の思いでした。大阪は今、ホテルも満杯、駅の貸ロッカーも満杯の混み込み様でした。日本一長い天神橋筋商店街は3km歩いて40分と聞いて引きかえしました。イルミネーションがひと際美しい商店街でした。